

■環境保全対策の内容

汚泥再生処理センターの設置及び維持管理において配慮する生活環境の保全に関する対策は、次に示すとおりです。

項目	段階	生活環境の保全に関する対策
大気質	維持管理	- 車両の適切な点検及び整備を実施する。 - 車両の規制速度の遵守、急停車、急発進及び空ぶかしの禁止並びにアイドリングストップの実施等を徹底する。 - 新施設への搬入出は、指定された道路以外を使用しないよう徹底する。
騒音	施設の設置	- 設備及び機器類は、建物内に配置し、騒音の漏洩を防止する。 - 騒音を発生させる機器は、できる限り低騒音型の機器を選定する。 - 騒音レベルの高い機器類は、遮音性の高い防音室に設置するか、防音力バーや壁面に吸音材を取り付ける等の対策を講じる。 - 防音室は、敷地境界からなるべく距離を確保できるように配置する。
	維持管理	- 設備の機能を良好に維持するため、日常点検等を実施する。 - 車両の規制速度の遵守、急停車、急発進及び空ぶかしの禁止並びにアイドリングストップの実施等を徹底する。
振動	施設の設置	- 設備及び機器類は、建物内に配置し、振動を低減する。 - 振動を発生させる機器は、できる限り低振動型の機器を選定する。 - 振動を発生させる機器を据え付ける際は、防振ゴムや防振架台等を取り付けるなど、振動を減少させる対策を講じる。
	維持管理	設備の機能を良好に維持するため、日常点検等を実施する。
悪臭	施設の設置	- 受入室等の室内は、常に負圧に保ち、外部への臭気の漏洩を防止する。 - 受入室の出入口には、高速自動シャッターを設置し、入口と出口の扉が同時に開閉しないように制御することで、し尿等運搬車両の搬入出作業で発生した臭気の漏洩を防止する。 - 臭気発生箇所は密閉構造とするとともに、臭気捕集口を設置し、臭気の漏洩を防止する。 - 発生臭気を高濃度、中濃度及び低濃度に区分して、各臭気を直接吸引し、各濃度に応じた脱臭設備により確実に処理する。 - 助燃剤運搬時の臭気を低減する。
	維持管理	- 脱臭装置は自動運転とし、保守及び点検整備が容易な構造とする。 - 設備の機能を良好に維持するため、日常点検等を実施する。
水質	維持管理	- 設備の機能を良好に維持するため、日常点検等を実施する。 - 処理水のモニタリングを継続実施する。

■総合評価

本事業の汚泥再生処理センターという事業特性及び立地環境を考慮し、大気質、騒音、振動、悪臭、水質の5項目について現況調査、予測及び影響の分析（評価）を実施した結果、全ての項目において、生活環境の保全に関する目標値を達成するものと評価しました。従って、本事業は周辺環境に配慮した事業計画であると判断されます。

<お問い合わせ先>
秩父広域市町村圏組合 事務局 水環境整備課（受付時間 8 時 30 分～17 時 15 分）
〒368-0002 秩父市栃谷 1477 番地
TEL：0494-21-0970 / E-mail：mizukankyou@union.chichibukouiki.lg.jp

汚泥再生処理センター建設に係る
生活環境影響調査報告書【概要版】

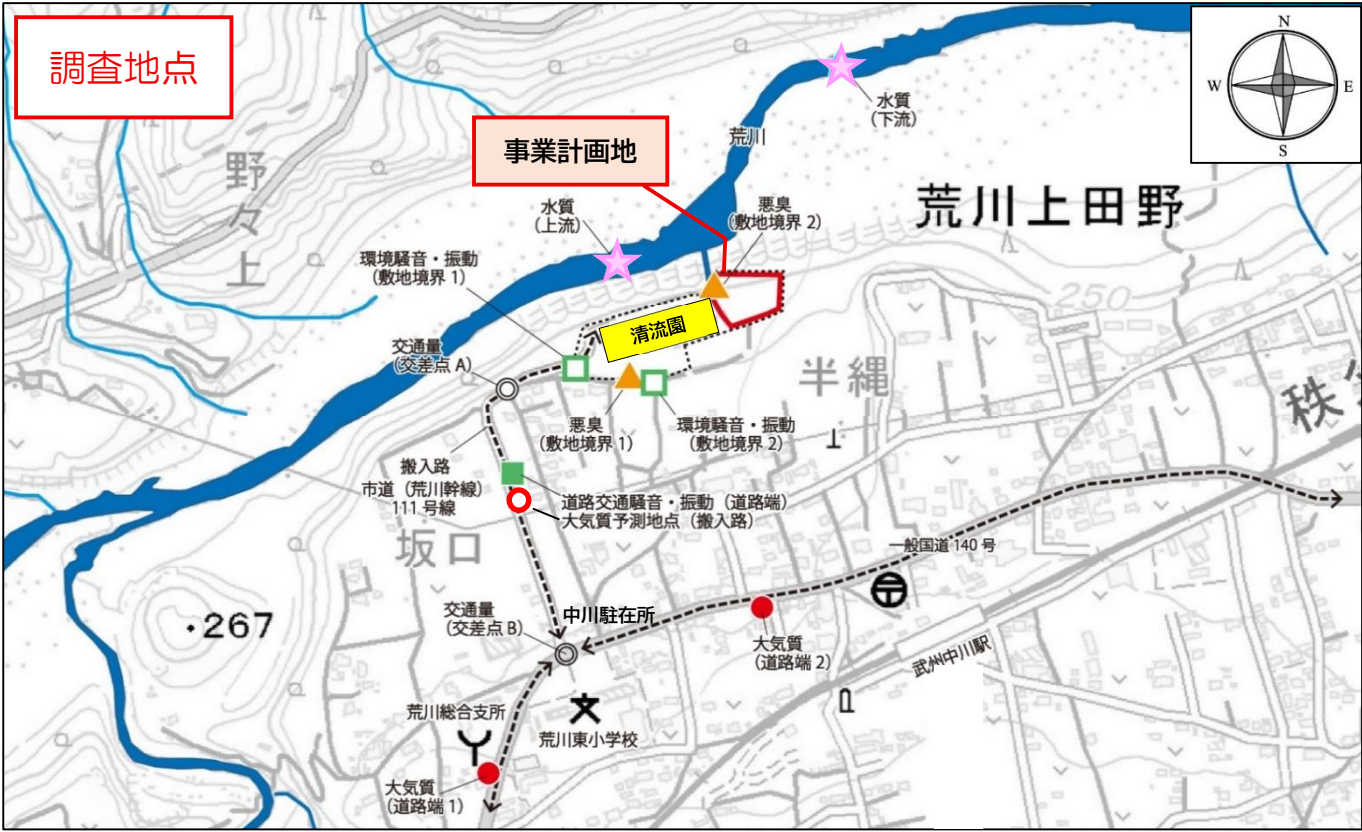
秩父広域市町村圏組合では、汚泥再生処理センターの整備を進めるにあたり、周辺地域の生活環境の保全に配慮するため、生活環境影響調査を実施しました。この資料は、調査結果等を基に作成した「生活環境影響調査報告書」の概要をまとめたものです。

■事業計画の概要

計画概要	現在、組合圏域（秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町）で排出されるし尿・浄化槽汚泥（以下、「し尿等」という。）は、清流園、溪流園、小鹿野衛生センターで適正に処理しています。既存施設が抱える「施設の老朽化」、「処理量の減少」、「処理効率の低下」の問題を解決し、資源を効率的に活用する循環型社会の形成を推進するため、 <u>清流園の敷地内に『汚泥再生処理センター』を整備することとしました。</u>
設置者	秩父広域市町村圏組合
事業計画地	埼玉県秩父市荒川上田野 1583-1（清流園敷地内）
施設の種類	汚泥再生処理センター
処理する廃棄物の種類	し尿、浄化槽汚泥、農業集落排水汚泥
施設の処理能力	60kL/日（し尿 7.1kL、浄化槽汚泥 52.9kL（農業集落排水汚泥含む））
施設の処理方式	水処理方式：浄化槽汚泥対応型脱窒素処理方式を想定 資源化：助燃剤化方式

■生活環境影響調査の内容

調査項目：大気質、騒音、振動、悪臭、水質
調査期間：令和7年7月～令和8年1月



生活環境影響調査の結果

- 調査結果の数値：施設から生じた影響だけではなく、周囲の環境なども含めて測定した数値です。
- 評価の凡例：○→予測結果が目標値を達成した場合　×→予測結果が目標値を達成しなかった場合

1. 大気質

◇し尿等運搬車両の走行に伴う排気ガスの影響

汚泥再生処理センターの処理能力(60kL/日)に基づき、し尿等運搬車両の走行に伴う排気ガスの影響を予測した結果、二酸化窒素と浮遊粒子状物質の大気濃度は調査結果と同程度であり、目標値を達成する見込みです。

予測地点	項目	調査結果	予測結果	目標値 (環境基本法による環境基準)	評価
道路端 1 国道 140 号 (西側)	二酸化窒素(ppm)	0.013	0.013	二 酸 化 窒 素：0.04 以下 浮遊粒子状物質：0.10 以下	○
	浮遊粒子状物質(mg/m³)	0.022	0.022		○
道路端 2 国道 140 号 (東側)	二酸化窒素(ppm)	0.013	0.013		○
	浮遊粒子状物質(mg/m³)	0.026	0.026		○
予測地点	項目	予測結果(※)		目標値 (環境基本法による環境基準)	評価
搬入路 市道(荒川幹線) 111 号線	二酸化窒素(ppm)	0.013		二 酸 化 窒 素：0.04 以下	○
	浮遊粒子状物質(mg/m³)	0.026		浮遊粒子状物質：0.10 以下	○

※搬入路では調査を実施していませんが、道路端 1 及び道路端 2 のうち、大きい方の値を搬入路に適用し、予測しています。

2. 騒音・振動

◇施設の稼働に伴う騒音・振動の影響

汚泥再生処理センター稼働時の敷地境界の騒音・振動は、既存施設(現清流園)と同時に稼働したとしても同程度の騒音・振動レベルであり、目標値を達成する見込みです。

【敷地境界の騒音】

予測地点	時間区分	調査結果	予測結果	目標値 (騒音規制法による規制基準)	評価
敷地境界 1	朝	40dB	40dB	朝：50dB 以下 昼間：55dB 以下 夕：50dB 以下 夜間：45dB 以下	○
	昼間	52dB	52dB		○
	夕	35dB	35dB		○
	夜間	36dB	36dB		○
敷地境界 2	朝	43dB	43dB	夕：50dB 以下 夜間：45dB 以下	○
	昼間	52dB	52dB		○
	夕	42dB	42dB		○
	夜間	42dB	42dB		○

時間区分の朝は 6 時～8 時、昼間は 8 時～19 時、夕は 19 時～22 時、夜間は 22 時～翌 6 時を示します。

【敷地境界の振動】

予測地点	時間区分	調査結果	予測結果	目標値 (振動規制法による規制基準)	評価
敷地境界 1	昼間	25dB 未満	25dB 未満	昼間：60dB 以下	○
	夜間	25dB 未満	25dB 未満		○
敷地境界 2	昼間	25dB 未満	25dB 未満	夜間：55dB 以下	○
	夜間	25dB 未満	25dB 未満		○

時間区分の昼間は 8 時～19 時、夜間は 19 時～翌 8 時を示します。

◇し尿等運搬車両の交通量及び走行に伴う騒音・振動の影響

汚泥再生処理センターの処理能力(60kL/日)に基づき、し尿等運搬車両の最大交通量を予測した結果、通行台数は増加しますが、騒音は調査結果と同程度と見込まれ、目標値を達成する見込みです。また、振動は調査結果よりも増加が見込まれますが、人が感じ取れる最小の振動である 55dB を下回っており、目標値を達成する見込みです。

【道路交通量】

予測地点	時間区分	調査結果	予測結果	備考
交差点 A	終日	25 台(夏季) 27 台(冬季)	40 台(日最大想定) 34 台(日平均)	施設の処理能力 60kL/日から将来の交通量を予測。

時間区分の終日は 0 時～24 時を示します。

調査結果及び予測結果は、し尿等運搬車両のみの台数を示します。

【道路交通騒音】

予測地点	時間区分	調査結果	予測結果	目標値 (環境基本法による環境基準)	評価
搬入路 市道(荒川幹線) 111 号線	昼間	52dB	54dB	55dB 以下	○

時間区分の昼間は 6 時～22 時を示します。

【道路交通振動】

予測地点	時間区分	調査結果	予測結果	目標値 (振動の感覚閾値)	評価
搬入路 市道(荒川幹線) 111 号線	昼間	25dB 未満	38dB	55dB 以下	○

時間区分の昼間は 8 時～19 時を示します。

3. 悪臭

◇施設の稼働に伴う悪臭の影響

汚泥再生処理センターは既存施設(現清流園)より脱臭設備が充実し、臭気対策が向上するため、稼働時の敷地境界における臭気指数は、調査結果と同程度以下となり、目標値を達成する見込みです。

予測地点	項目	調査結果	予測結果	目標値 (悪臭防止法による規制基準)	評価
敷地境界	臭気指数	12(最大値)	12 以下	18 以下	○

4. 水質

◇処理水の放流に伴う水質への影響

汚泥再生処理センター処理水の放流地点の下流における水質調査測定項目のうち、生物化学的酸素要求量(BOD)と浮遊物質(SS)の濃度上昇は極めて少なく、目標値を達成する見込みです。

予測地点	項目	季節	調査結果	予測結果	目標値 (環境基本法による環境基準)	評価
放流地点 下流 (荒川)	生物化学的酸素 要求量 BOD(mg/L)	夏季	0.5	0.5	2 以下	○
		冬季	0.5	0.5		○
	浮遊物質 SS (mg/L)	夏季	1.0	1.0	25 以下	○
		冬季	1.0	1.0		○